

検査技術科学専攻新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。去年から専攻主任をしております中澤です。さて訓話ということですが、先日、自治会のパンフレットにもメッセージを書くように頼まれ、大事なことはだいたいそちらに書いたので、後でじっくり読んでください。これで終わりにしても良いのですが、せっかく時間をいただいたので、自治会パンフレットに書かなかったことをひとつお話ししましょう。

皆さんは受験の最中だったので、見ていた人は少ないかもしれませんが、1月から3月のテレビドラマで日曜劇場の御上先生という番組がありました。文部科学省の役人が高校教師として出向し、インサイダーとしての教育改革に取り組むというのが本筋な、メッセージ性の強いドラマでしたが、俳優もうまかったので見ごたえがありました。今でもTVerで1話から3話と最終話は見ることができますが、最終話のメッセージとして明確に示されたのは、世の中には明確な答えのない問題がたくさんあり、それに対しては考え続けるしかない、ということでした。

このメッセージを言い換えてみると、この世界で発生するほぼすべての事象にはメリットとデメリットがあり、かつ、ある事象がメリットであるかデメリットであるかは立場によって変わってくる、という事実を踏まえた上で、総体としてメリットがデメリットを上回るような行動を選択するように考えようということです。さらに、総体としては、というのは自分自身という個人だけではなくて、コミュニティや国、あるいは人類全体、あるいは地球にとってどうかという点まで考えなくてはいけないので、事象の規模によって範囲は異なりますが、その事象と利害関係の生じる行為の関係者の間で議論をして合意した上での意思決定をしなくてはいけないということです。それをやった上でも、大多数の人にはメリットの方が大きいことでもデメリットがメリットを上回ってしまう少数者が生じてしまうケースは少なくないので、すべての人が納得して幸せになれるような選択はとても難しいことです。しかし人間には考える能力があり、言葉を使ってコミュニケーションをとる能力があるので、何も考えずただ流されてしまったり、独裁者の決定に従うことを強制された末に不幸になるよりは、自分が考えて選んだ結果が失敗に終わるほうが、まだ納得できるはずです。そういう経験を経て人間は成長できるので、次はもっと良い結果が得られるかもしれない、ということが生きる希望になるはずです。

話が長くなってしまいましたが、これからの大学生活で、学び、考え、議論することを通して、皆さんが大きく成長してくれることを期待しています。そのために環境を整えることが教員や事務方の役割ですので、遠慮なく大学をフルに活用してください。以上、簡単ですが訓話といたします。